

帝キネマ屋時代映画

原作並脚色者

監督者

撮影者

主演者

市川百々之助氏

森木二郎氏

和志田登良男氏

誠氏

紹介
組ひ所は「侠客」同様「懦夫奮起せば」式を

組つたものだが主人公三之助が雖を組ひ打つ手

法を剣法に頼用して成功すると云ふ着想やエビ

ソードの盛り方が巧みださ云ふ點で相當面白く

見られた「茂木二郎氏」（大阪音邊劇場主）は前記の如くますか御商賣柄文解説

持つてゆき方は中々うまい。それは總てを喜劇的に取扱つて居る點も無理で生じないで好い。劇仕事場に於ける人物の出し方は大變氣が利いて居た。要所に捕入した蠅の大字も良く利いて居た。市川百々之助氏の三之助は演出に相當苦心しては居るがその割に効果がなかつた。評者は「侠客」に於ける演出の方が好意が持てた。泉清子嬢のお絹は前篇では素晴らしく美しかった。中村師歌平氏の三枚目は相變らず受け、東風之助氏の敵役は何時も程惜々しない番頭の役で百々之助氏技も娘役として申し分なかつた。中村師歌平氏の三枚目は相變らず受け、東風之助氏の敵役は時光・山本綠葉・山本光一にて居る。前篇は喜劇味が多いから誰にでも受けれるが、劇劇を好む者は前篇では百々之助の殺陣を見られないから一寸不満であらう。（五月二十一日 大阪音邊劇場 神戸相生座 京都キネマ俱樂部封切）